

1-2 医療班の派遣

DMATによる災害急性期の対応が終了した後も引き続き切れ目のない被災地への医療支援を行うため、被災地に向かう移動ルート、燃料の確保が困難な状況の中、医療班を3月14日より全国から岩手県、宮城県、福島県へ156チーム（約710名）を順次派遣し、救護所での診療や巡回診療等を実施した。

被災地では自治体も避難所の状況、医療ニーズの把握が困難だったため、NHO現地対策本部が被災現場を巡って、状況確認、情報収集、自治体や地元医師会等との調整をし、活動エリアを定めて救護所の立ち上げ等を行った。

医療機関が大きな被害を負った地域では、長期的な医療班の支援が求められ、国立病院機構は全国ネットワークにより継続的な医療班の派遣が可能であることから、その地域を統括する機関としての役割を担い、自衛隊等他の機関と連携しながら活動した。

本震災の支援活動として東京電力福島第一発電所事故による原子力災害への対応も行われた。メンバーを放射線医師、放射線技師等で編成し、人体に問題となる量の汚染がないことを確認するために福島県の住民に対

して放射線被ばくスクリーニングを行った。また、原則立ち入りが禁止された警戒区域（原子力発電所から半径20km圏内）の住民が一時帰宅する際の中継基地で体調不良者への診療等を行うため医療班を派遣した。

医療班が使用する医薬品に関しては、当初は各医療班が持参した物を中心に活用していたが、被災地の医薬品の流通が回復すると共に、被災県や中核病院からの供給体制が構築された。

医療班による支援活動については、被災を受けた地域の開業医等既存の医療資源の復興や、避難所廻りの巡回バスの運行による医療機関へのアクセス向上等により医療ニーズの減少が起きていること、避難所環境の改善等を総合的に判断して、一定の期間を持って支援活動を終了した。

①岡山医療センター（宮城県東松島市鳴瀬第一中学校）



②仙台医療センター（仙台市岡田小学校）



③金沢医療センター（宮城県石巻市）



④災害医療センター（福島県での放射線スクリーニング）



⑤下志津病院（福島県での放射線スクリーニング）



震災直後、冬型の気圧配置が強まり東北地方は例年になく厳しい寒さが続き積雪もあった。初期に派遣された医療班は、凍結、陥没など道路状況が悪い中での移動となり、被災地入りするにも時間と労力を消耗した。また、報道で津波の映像を見ているとは言え、家屋の木材や

壊れた車が散乱し瓦礫の山と化した光景、潮と焦げ臭さが混ざったにおいが鼻に付く沿岸部の状況を目の当たりにし、不安と焦燥感を募らせながら活動開始を余儀なくされた。

【名古屋医療センター医療班の移動経路】



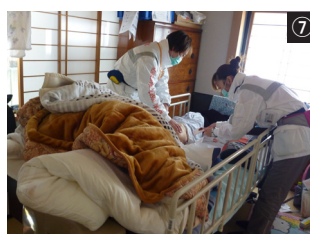
【善通寺病院医療班の移動経路】



⑥名古屋医療センター（岩手県山田町山田南小学校）



⑦三重中央医療センター（岩手県釜石市での個人宅訪問）



⑧千葉医療センター（岩手県宮古市）



⑨岩手県山田南小学校での医療班全体ミーティング



⑩放射線スクリーニング班（福島県）



1-2 医療班の派遣

(1) 宮城県における医療班の活動

被災4日目の3月14日に宮城県知事より国立病院機構理事長宛てに、災害対策基本法第29条の規定に基づく医師等の応援要請があった。期間は、当面4月までの予定とされた。

こうした状況を受け、医療班第1陣3班（横浜医療センター、大阪医療センター、神戸医療センター）を仙台医療センター内に設置した国立病院機構現地対策本部へ派遣した。医療班は3月15日から活動を開始し、以降

継続的に主に東松島市の鳴瀬地区、亘理郡の山元町、仙台市宮城野区の3地域における救護活動に従事した。

また、被災16日目の3月26日より災害医療コーディネーターとして専門家を宮城県の現地対策本部に派遣し、到着する医療班へのブリーフィング、医薬品の確保や地域の関係者との相談等の医療班活動における支援を実施した。

【宮城県へのNHO 医療班派遣スケジュール】

病院名	3月																4月													
	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
1 横浜医療センター	移動			引継 帰部																										
2 大阪医療センター①	移動			引継 帰部																										
3 神戸医療センター	移動			引継 帰部																										
4 大阪医療センター②			移動						引継 帰部																					
5 南和歌山医療センター			移動						引継 帰部																					
6 岡山医療センター①			移動						引継 帰部																					
7 東広島医療センター			移動						引継 帰部																					
8 長崎医療センター				移動								引継 帰部																		
9 大阪医療センター③					移動							引継 帰部																		
10 大阪南医療センター					移動							引継 帰部																		
11 福岡東医療センター①						移動											引継 帰部													
12 鹿児島医療センター									移動																					
13 呉医療センター①																														
14 九州医療センター																														
15 函館病院																														
16 熊本医療センター																														
17 関門医療センター																														
18 福岡東医療センター②																														
19 広島西医療センター																														
20 愛媛病院																														
21 別府医療センター																														
22 災害医療センター																														
23 浜田医療センター																														
24 姫野医療センター																														
25 岩国医療センター																														
26 福岡病院																														
27 福山医療センター																														

病院名	4月																														5月										
	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日												
25 岩国医療センター	引継 移動																																								
26 福岡病院				引継 移動																																					
27 福山医療センター				引継 移動																																					
28 四国がんセンター				移動					引継 移動																																
29 長崎病院・指宿病院				移動						引継 移動																															
30 高知病院												引継 移動																													
31 九州がんセンター								移動																																	
32 岡山医療センター②														移動					引継 移動																						
33 熊本再春荘病院																																									
34 呉医療センター②																																									
35 小倉医療センター																																									
36 長崎川棚医療センター 熊本南病院																																									
37 宮崎東病院																																									

国立病院機構への直接の要請の他にも、所在する
地方自治体からの要請を受けた7病院（北海道医療セ
ンター、横浜医療センター、信州上田医療センター、金沢

医療センター、姫路医療センター、奈良医療センター、
香川小児病院）から15班、75名を宮城県に派遣した。

【地方自治体の要請による医療班の派遣】

病院名	活動地域	活動期間	主な活動内容
北海道医療センター	気仙沼市	5月23日～5月27日	気仙沼市立本吉病院を中心に、診療活動、巡回活動を実施
横浜医療センター	気仙沼市	① 4月10日～4月13日 ② 5月22日～5月25日 ③ 6月8日～6月11日	避難所の巡回診療
信州上田医療センター	石巻市	① 3月25日～26日 ② 3月31日～4月1日 ③ 4月6日～7日 ④ 4月12日～14日	青葉中学校救護所での診療
金沢医療センター	石巻市	① 3月23日～3月25日 ② 4月2日～4月4日 ③ 5月13日～5月16日 ④ 7月18日～7月21日	住吉小学校内救護所での診療、各避難所の巡回診療 石巻赤十字病院を拠点に石巻市雄勝地区の巡回診療 石巻赤十字病院を拠点に石巻市河北地区の巡回診療 石巻市北上町にある橋浦診療所での診察
姫路医療センター	石巻市	4月23日～5月2日	避難所救護所での診療
奈良医療センター	気仙沼市	4月12日～16日	小原木中学校救護所での診療
香川小児病院	南三陸町	① 3月27日～3月30日 ② 4月4日～4月7日	避難所の巡回診療

①宮崎東病院（山元町坂元中学校）



②香川小児病院（南三陸町）

③奈良医療センター（気仙沼市小原木中学校）

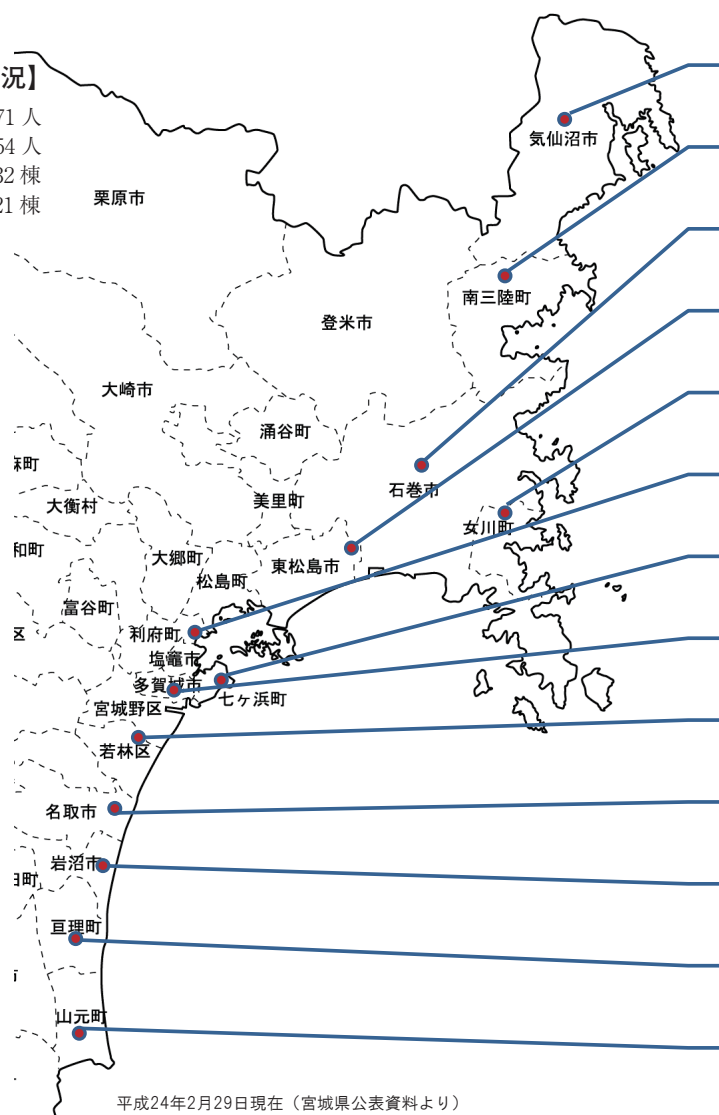
④北海道医療センター（気仙沼市立本吉病院外来）

⑤金沢医療センター（石巻市雄勝総合支所）



【宮城県の被害状況】

死者： 9,471 人
 行方不明者： 1,754 人
 全壊住家： 83,932 棟
 半壊住家： 138,721 棟



気仙沼市	死者1,030人、行方不明者338人 全壊・半壊住家11,039棟
南三陸町	死者565人、行方不明者310人 全壊・半壊住家3,311棟
石巻市	死者3,182人、行方不明者557人 全壊・半壊住家33,378棟
東松島市	死者1,047人、行方不明者66人 全壊・半壊住家11,012棟
女川町	死者576人、行方不明者347人 全壊・半壊住家3,261棟
利府町	死者46人、行方不明者0人 全壊・半壊住家951棟
七ヶ浜町	死者70人、行方不明者5人 全壊・半壊住家1,303棟
多賀城市	死者188人、行方不明者1人 全壊・半壊住家5,335棟
仙台市	死者704人、行方不明者33人 全壊・半壊住家124,608棟
名取市	死者911人、行方不明者55人 全壊・半壊住家39,030
岩沼市	死者182人、行方不明者1人 全壊・半壊住家2,165棟
亶理町	死者257人、行方不明者12人 全壊・半壊住家3,353棟
山元町	死者671人、行方不明者19人 全壊・半壊住家3,296棟

平成24年2月29日現在（宮城県公表資料より）

- ① 仙台医療センター（仙台市高砂中学校）
- ② 小倉医療センター（山元町保健センター）
- ③ 長崎川棚医療センター・熊本南病院（山元町坂元中学校）
- ④ 奈良医療センター（気仙沼市小原木中学校）
- ⑤ 大阪医療センター（東松島市大塚地区コミュニティセンター）
- ⑥ 姫路医療センター（石巻市鹿妻小学校）
- ⑦ 香川小児病院（南三陸町）
- ⑧ 金沢医療センター（石巻市住吉小学校）



鳴瀬地区（宮城県東松島市）

(1) 人口：1.1 万人

(2) 避難所：15 か所（3月23日時点）

施設名	避難者数
①鳴瀬第一中学校	280
②小野小学校	120
③鳴瀬庁舎	200
④小野市民センター	270
⑤定林寺	110
⑥浅井地区センター	77
⑦中下地区センター	15
⑧大塚地区センター	160
⑨肘曲地区センター	5
⑩川下地区センター	71
⑪上下堤地区センター	52
⑫往環地区センター	30
⑬品井沼	97
⑭デイサービスセンター百合の里	19
⑮宮戸小学校	720

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

(3) 活動経過

3月17日：東松島地域の医療ニーズを把握

3月18日：東松島保健センター・各避難所の情報収集及び診療開始（岡山医療センター班）

3月19日：東松島保健センターと方針を相談し、1室を活動の地域拠点として借りる

3月20日：日赤石井医師と今後の連携を相談

3月21日：国際班は石巻日赤の朝夕会議出席開始

3月23日：NHO 1 班、国際医療研究センター 1 班による巡回診療

4月27日：呉医療センター班、国際医療研究センター班による巡回診療
NHO 医療班派遣終了

4月28日：国際医療研究センター 1 班体制による巡回診療

(4) 地域の概要

仙台市の北東30km、石巻市の南西に位置する鳴瀬地域は、地震による津波で甚大な被害を受けた。

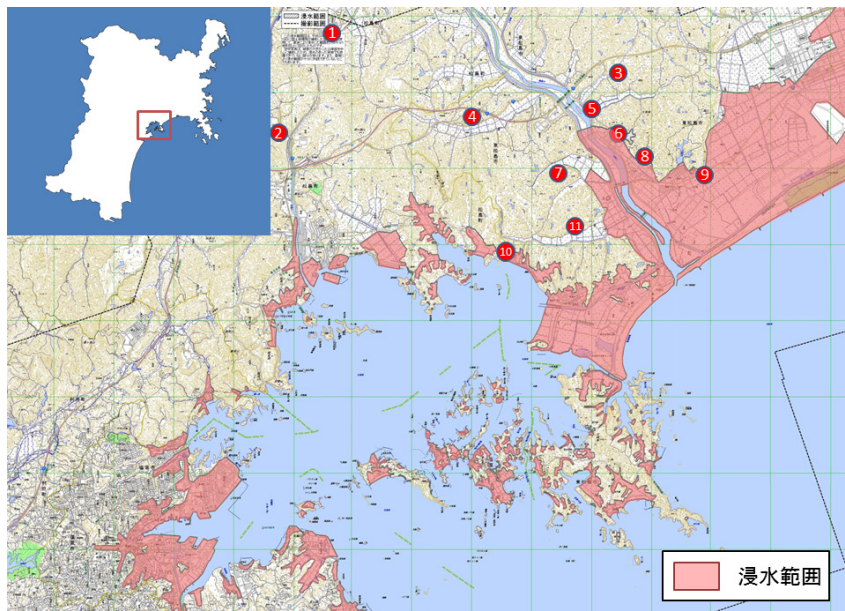
地域の最南端の海沿いに位置する野蒜（のびる）地区は津波により特に壊滅的な打撃を受けた。被災1か月後においても建造物が流出した平原に、ところどころ流れ着いた車やボート、木などが放置されたままになっている状況であった。海沿いを走る国道45号線と、並行して走るJR仙石線の線路も津波で襲われ通行が不能となった。国道は早くから自衛隊により瓦礫が除去され通行が可能となったが、線路上の瓦礫や車は除去されず長く放置されたままであった。



- ①岡山医療センター（鳴瀬第一中学校）
- ②広島西医療センター（品井沼農村環境改善センター）
- ③岩国医療センター（矢本保健センター）
- ④南和歌山医療センター（定林寺）

【東松島市での活動地域】

- ① 品井沼農村環境改善センター
- ② 町民の森野外活動センター
- ③ デイサービスセンター百合の里
- ④ 上下堤創作センター
- ⑤ 鳴瀬第一中学校
- ⑥ ケアハウスはまなすの里
- ⑦ 浅井地区センター
- ⑧ 小野市民センター
- ⑨ 牛網地区学習等供用施設
- ⑩ 大塚地区コミュニティセンター
- ⑪ 定林寺



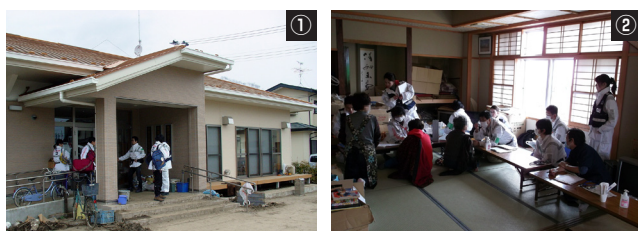
浸水範囲概況図：国土地理院

東松島市鳴瀬地区（旧鳴瀬町）は、石巻二次医療圏と仙台二次医療圏の境に位置し、石巻赤十字病院と坂総合病院の二つの中規模病院のアクセスの谷間の地域であり、病院はなく3つの診療所が開業していた。しかし震災による津波で開業医2名は亡くなり、残る1名も避難所生活となるなど地域の医療資源の復興の見通しが立たない状況であった。

また、ガソリンの供給状況が悪く、多くの住民は避難所等から遠方の医療機関へアクセスできない状況であった。隣接する矢本地区では、小規模の真壁病院のみ診療を実施していたが、多くの患者が訪れ診療過剰ぎみとなっていた。

一方、保健活動においても、鳴瀬地区には保健センターがなく、隣の東松島市矢本地区（旧矢本町）にある東松島市矢本保健相談センターの保健師数名が、連絡の取れない各避難所を巡回している状況であった。

- ① 大阪医療センター（往環地区センター）
- ② 呉医療センター（牛網地区学習等供用施設）
- ③ 福山医療センター（品井沼農村環境改善センター）



(5) 活動の開始

DMAT活動を終え国立病院機構の医療班活動に合流していた国際医療研究センターDMATが宮城県医療整備課の依頼を受け、東松島市の避難所リストを得るために連絡の取れない東松島市を3月17日（木）に訪れ、支援が必要とされていることを確認した。

そのため、翌3月18日（金）に岡山医療センターの医療班を派遣し巡回診療を開始（14の避難所のうち1つの避難所を巡回し82名を診療）するとともに、東松島市の矢本保健相談センター主任保健師より継続した支援の要請を受けた。



翌3月19日(土)には、岡山医療センターの医療班に加えて、南和歌山医療センターの医療班を派遣し、網羅的に地域のほぼ全ての避難所の巡回診療等を行い状況確認した。また、東松島市の副市長、保健福祉部長、健康推進課長等と面会し、今後の継続した支援の方法について説明すると共に、地区の医師団の医師数名とも面会し、国立病院機構の支援活動について説明し理解を得た。

(6) 活動体制(保健センター、国際医療との連携)

鳴瀬地区の巡回診療については、自治体や国際医療研究センターとも相談した結果、急を要する患者は乏しく主に慢性疾患を持つ高齢者等の継続的な診療が求められていたため、約14の避難所をNHO医療班1班と国際医療研究センターの医療班1班の計2班が3日に1回定期的に巡回する体制をとった。

また、避難者の多くは、日中に自宅の後片付け等で避難所にはいないため、医療班が遅くても前日には診療に訪問する時間を避難所に伝え、診療を必要とする人が医療班の訪問時に避難所にいられるように配慮した。活動

の終了後は必ずその日のうちに、東松島保健センターの主任保健師に活動結果、注意を要する人、避難所の状況変化等を報告するとともに、明日の担当避難所と開始時間を確認することとした。

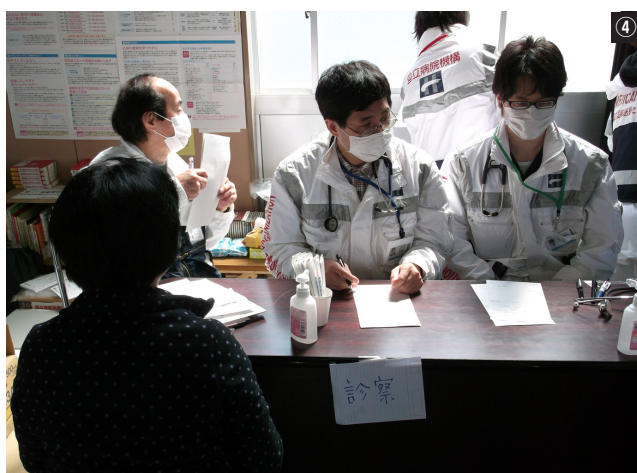
なお、国際医療研究センターからはコーディネーター2名が継続派遣され、NHOの医療班コーディネーターと連携して活動を実施した。

(7) 搬送先の確保

鳴瀬地区を含む石巻2次医療圏域は、3月20日(日)の県対策本部会議において、石巻赤十字病院が医療班活動の調整を行うとされた。このため、国際医療研究センターのコーディネーターチームは、朝7時と夕方18時に石巻赤十字病院で行われる調整会議に出席し、活動状況を報告するとともに搬送を要する個別患者等について石巻日赤病院と随時相談した。

一方、NHOの医療班は、仙台医療センターで行われる8時と18時の打ち合わせに出席し、お互いが活動前に東松島保健センターに情報を持ち寄り担当保健師とその日の活動を確認してから活動を実施する体制をとった。

- ④ 呉医療センター(大塚地区コミュニティセンター)
- ⑤ 関門医療センター(中下地区センター)
- ⑥ 愛媛病院(川下地区センター)
- ⑦ 函館病院(矢本保健相談センター)
- ⑧ 大阪医療センター(鳴瀬第一中学校)
- ⑨ 南和歌山医療センター(パンク修理の様子)
- ⑩ 高知病院(仙台医療センターでの会議)



(8) 関係団体等

- 国際医療研究センター
第二陣（～3月18日）DMAT 1班
第三陣（3月17日～22日）調整1班（協力部）
第四陣（3月17日～26日）調整1班（活動調整）、
医療1班（診療活動）
- 石巻赤十字病院
石巻二次医療圏で活動する医療班の取り纏め
- 東松島市保健センター
東松島市の避難所の健康衛生維持

【医療班による診療例（鳴瀬第一中：被災8日目）】

区分	人数	内訳
地震一次被害	5	外傷3、打撲2
地震二次被害	28	感冒19、不眠5、便秘3、下痢1
定期処方	35	高血圧22、痛風3、その他10
その他	14	アレルギー4、その他10
合 計	82	

山元町（宮城県亘理郡）

(1) 人口：1.6万人

(2) 避難所：9箇所（3月21日現在）

施設名	避難者数
役場、中央公民館	1,300
坂元支所	300
合戦原学堂	300
真庭区公民館	200
老人憩いの家	170
山下第一小学校	570
山下中学校	650
みやま荘 他	120

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

(3) 活動経過

3月16日：宮城病院の支援要請を受け訪問。脳卒中患者1名を仙台医療センターに搬送

3月17日：ALS患者2名の航空搬送を調整するも天候不良で飛ばず。国立がん研究センターより宮城病院に診療支援（医師2名他）

3月18日：ALS患者2名を航空搬送（東大へ1名、医科歯科へ1名）

3月19日：宮城病院への看護師派遣10名開始

3月20日：NHO医療班1班体制による巡回診療開始

5月9日：NHO医療班による最期の巡回診療

①熊本再春荘病院（山元町保健センター）

②鹿児島医療センター（坂元支所）



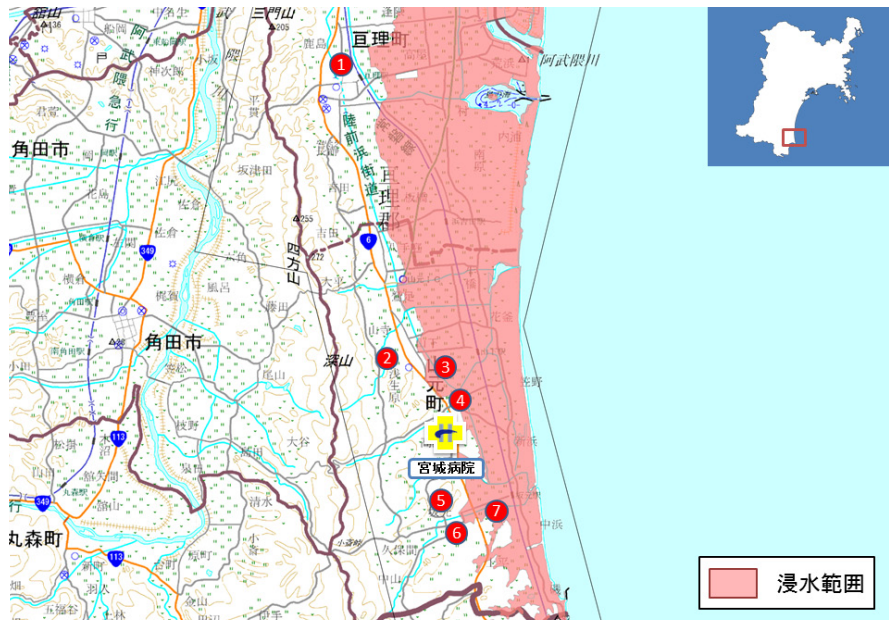
③山元町坂元駅

④宮城病院



【山元町での主な活動地域】

- ① 亘理高校・中学校
- ② 山元町中央公民館
- ③ 高瀬多目的センター
- ④ 合戦原学堂避難所
- ⑤ 真庭区公民館
- ⑥ 坂元支所
- ⑦ 坂元中学校



浸水範囲概況図：国土地理院

(4) 地域の概要

仙台市の南約40kmの海沿いにある山元町は町の南北に走る国道6号線によって東側の沿岸部と西の山側に二分される。震災による津波により、国道から海側を中心に被害を受けた。特に町の南部では、国道から海側の建造物で残存するのは高台にある坂元中学校のみで、国道から数km先の海までの間の全ての建造物が流出して巨大な平原が出現し、震災以前は町並みにさえぎられて見えなかった海が国道から見晴らせる状態にあった。また、地震・津波により町の人口約1万6,000人のうち、900名近い死者・行方不明者が報告された。

(5) NHO 宮城病院の状況

山元町にある宮城病院は国道より西の山側にあり津波の難を逃れたが、職員1名が亡くなり、職員の家族や通院中の患者にも多くの犠牲者が出た。また、地元に居住

する看護師を中心に職員の約2割にあたる70名近くが、家屋の床上浸水、全半壊、流出等により生活基盤を失った。このような状況の中、地域で唯一の病院でもあるため、被災当初から多くの溺水者、けが人が搬送されるとともに、被災した多くの住民が避難し、職員は通信が完全に途絶え家や家族の安否も分からない孤立感のまま、不眠不休で対応を余儀なくされた。

(6) 医療班活動の開始

被災6日目の3月16日(水)に宮城病院より仙台医療センターに衛星携帯電話を通じて医師派遣等の支援要請が出された。それを受け、急遽NHO現地対策本部員と仙台医療センター医師及び国際医療研究センター医療班等が支援のため宮城病院を訪れた。状況確認をしたところ三つの課題があり解決を必要とされていた。

⑤⑥宮城病院



⑦嬉野医療センター（山元町保健センター）

⑧長崎病院・指宿病院（真庭区公民館）





宮城県亘理郡山元町：
平成 23 年 5 月 18 日撮影
(国土地理院)

一つ目は、山元町では、ガソリン不足や公共交通機関が不通の為、避難所等にて医療機関にかかれない患者が、病状悪化後に、夜間電話が繋がらないため連絡なしに救急搬送されてくる状況であった。その為、救急外来ではトリアージ体制による手厚い当直体制を組まざるをえず医師・看護師の疲労が蓄積していた。

二つ目として、電気が不通のまま自家発電にて人工呼吸器をつけた患者の診療を行っていたが、自家発電用の燃料は後二日分しかなく、自家発電停止等の不足の事態に備えて患者搬送を段階的に進める必要があった。

三つ目として、安否不明職員が存在や、家族と連絡が取れず不安を訴える患者へのケア負担の増加、自宅へ帰れない職員の疲労蓄積等の原因により看護スタッフ

の人手が不足していた。

院長を含め協議した結果、一つ目の課題に対して県外より医療班を避難所に派遣し、未然に避難者の病状悪化を防ぐ事、二つ目の課題に対しては、ALSの患者6名をヘリ等にて他の施設（東大病院と東京医科歯科大学に各1名ずつ、新潟病院に4名）に搬送する事、三つ目の課題に対しては、看護師を他の機構病院から派遣する事を取り決めた。また、搬送先が見つかっていなかった脳梗塞患者1名を仙台医療センターに救急搬送した。こうして、3月20日(日)から活動を始めた長崎医療センターのチームを皮切りに、山元町での医療班活動が開始された。



(7) 自衛隊との連携

山元町の医療班活動は、山元町の8箇所の避難所のうち北部の2箇所を自衛隊が担当し、南部の6箇所をNHO医療班が担当した。

(8) 地域の保健活動

山元町には保健師が5名おり、山下中学校と坂元中学校に県外からのボランティアの保健師が援助に入っている状況であった。

保健師活動の拠点としている山元町中央公民館にリーダー保健師の他2名の保健師が常駐し、1名が他の避難所を巡回する体制をとっていた。

3月21日(月)には、他の1名と県外からのボランティアの保健師1名が「薬の手帳」をもっているなど処方の方かっている方の必要な薬のリストを午前中に集め、宮城病院に持参し16時に用意された薬を避難所に持ち帰る

取り組みを開始した。(宮城病院かかりつけ以外も含む)

(9) 地域の医療機関の復興の状況

震災前にあった4つの診療所のうち、被災10日目までには、3つの診療所が診療を再開した。また、被災により閉院していた1診療所は、再開の準備をしながら巡回診療を実施した。

ただ、ガソリン不足などによる移動困難により通院できない患者も残っており、以前と同等になるには時間を要すると考えられた。

(10) 宮城病院へ看護師派遣

宮城病院を支援するため、近畿ブロック管内をはじめとした全国各地の機構病院より看護師が継続的に派遣された。(後述)

- ①鹿児島医療センター（真庭区公民館）
- ②長崎病院・指宿病院（山元町保健センター）
- ③九州がんセンター（坂元中学校）
- ④真庭区民会館
- ⑤仙谷官房副長官ら視察（宮城病院）
- ⑥長崎川棚医療センター（山元町保健センター）
- ⑦鹿児島医療センター（老人憩いの家）

- ⑧災害医療センター（坂元中学校）
- ⑨NHO現地対策本部（山下小学校）
- ⑩宮崎東病院（坂元中学校）
- ⑪長崎病院・指宿病院（坂元中学校での衛生指導）
- ⑫ボランティアによる美容院（山元町保健センター）
- ⑬宮城病院（避難所の支援）
- ⑭九州がんセンター（宮城病院での会議）



宮城野区（宮城県仙台市）

人口19万人を抱え、仙台医療センターが所在する仙台駅東地区から港へのエリアである宮城野区では、南北に走る高速道路より海側の地域が津波の被害を受けた。

当初、仙台医療センターでは、DMAT12班のトリアージと、医師50人の3交替体制で救急体制を組んでいたがDMATの撤退に伴い医療班が救命救急を支援した。その後、患者数の減少に伴い、市内津波エリアの避難所を継続的に支援することとなった。

(1) 活動経過

- 3月15日：仙台医療センター救命救急のトリアージ支援 県対策本部により情報
- 3月16日：仙台医療センター救命救急の中傷者診療
- 3月17日：仙台市役所、日赤仙台支部より情報収集 宮城野区より岡田小学校周辺へ支援要請 宮城野区の主要避難所を調査
- 3月18日：岡田小学校等での巡回診療を開始（東広島医療センター班39名、仙台医療センター班40名）
- 3月20日：岡田小学校等での巡回診療（仙台医療センター班31名）
- 3月21日：地区医師会からの要請に基づき、高砂中学校に仙台医療センター班による常設診療所を開設（仙台医療センター班37名）
- 4月1日：最後の診療

(2) 避難所支援

国立病院機構の担当避難所 3箇所
活動医療班 1班（仙台医療センター医療班）

【各避難所の避難者数】

避難所	避難者数
岡田小学校	750
高砂中学校	600
鶴巻小学校	250
合 計	1,600

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

(3) 備考

仙台医療センターでは、地震発生より7日目までの1週間に救急外来にて、654人を診療、うち204人が入院となった。

【仙台医療センターでのトリアージ患者数】

症状	3/11	3/12	3/13	3/14	合計
重症	19	7	4	8	38
中症	38	39	31	49	157
軽症	31	58	69	81	239
合計	88	104	104	138	434
入院	26	47	28	42	143

宮城野区の要請に基づき、3月17日に津波の被害が大きかった岡田小学校等の避難所に医療班を派遣し、避難所の状況調査、診療を行った。翌日より巡回診療を開始。

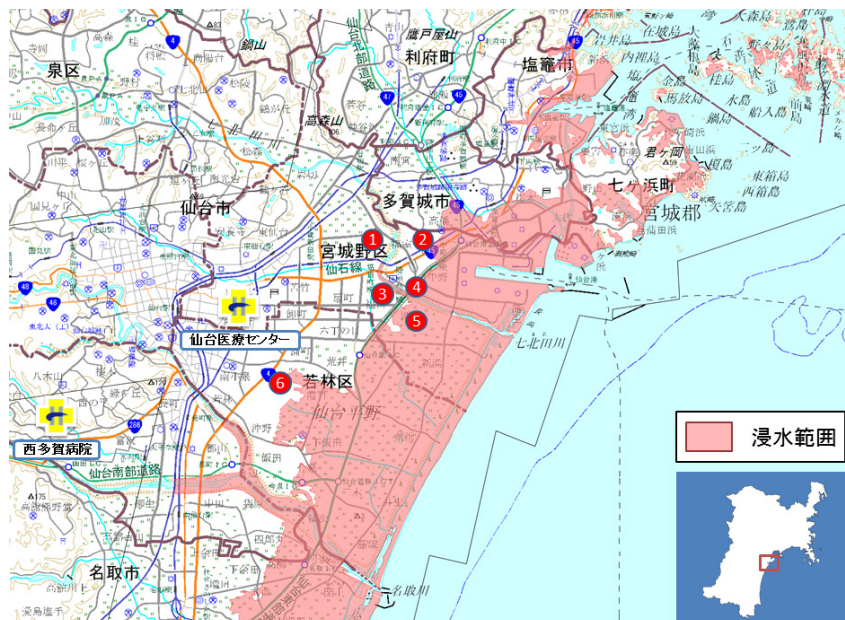
- ①岡田小学校避難所
避難者：750名、救護所：5名
看護師巡回も高齢者が多く、常備薬が不足。
(例：高血圧薬、インシュリン自己注射等)
- ②高砂中学校避難所
避難者：600名、保健師巡回
- ③鶴巻小学校避難所
避難者：250名、保健師巡回
30名程度の慢性患者が薬剤不足、火傷患者あり
- ④中野栄小学校避難所
避難者277名、保健師巡回2名、開業医営業
- ⑤田子小学校避難所
避難者：約200名、看護師巡回2名
3月16日電気水道復旧、食糧豊富

津波の被害があり、携帯電話も繋がらず医療アクセスが悪い

津波の被害も無く、ある程度医療アクセスが良い

【宮城野区での活動地域】

- ① 田子小学校
- ② 中野栄小学校
- ③ 鶴巻小学校
- ④ 高砂中学校
- ⑤ 岡田小学校
- ⑥ 霞目駐屯地



浸水範囲概況図：国土地理院

- ① 大阪医療センター（仙台医療センターの支援）
- ② 横浜医療センター（仙台医療センターの支援）
- ③ 南和歌山医療センター（仙台医療センターの支援）
- ④ 仙台医療センター内でのミーティング
- ⑤ 神戸医療センター（仙台医療センターの支援）
- ⑥ 東広島医療センター（岡田小学校）
- ⑦ 仙台医療センター（高砂中学校）
- ⑧ 仙台医療センターの様子



被災後1ヶ月の現地の状況

(1) 仙台市内

現地対策本部のあった仙台市内では、震災後より徐々に電気、上下水道、ごみ収集、食料品販売、コンビニ、及び飲食店の営業、ガソリン供給、ガスと風呂の順で生活が復興されていき、被災後一ヶ月の時点で、派遣された医療班の日常生活に大きな支障は来さなくなっていた。しかし、依然市内の約半分の地域でガスの供給がとまっ

たままで、種々の商品の流通も順調にほど遠い状態であった。

(2) 東松島市

被災後一ヶ月の時点で、医療班活動の拠点である東松島市保健センターにおいても、電気・上水道は復旧されたものの、下水道は回復しておらず、トイレは駐車場内

に設置された仮設トイレを使用している状態であった。

また、石巻市及びその周辺ではガソリンの供給不足が深刻で、多くの援助者の活動にも影響を及ぼしていた。東松島市矢本地区では、開業医や私立病院など既存の医療機関が徐々に診療を再開していたが、避難者の多くはこれら医療機関へのアクセスを持っていない状況であった。更に、津波被害が甚大であった南部・海岸近傍の東松島市鳴瀬地区では、被災一ヶ月後の時点でも既存の医療機関が再開する目処は立っていなかった。

(3) 山元町

被災後一ヶ月の時点での避難所の環境は、ほとんどの避難所で上下水道をはじめとしたライフラインは依然復旧していなかったが、大多数の小規模避難所では、生活環境としては概ね受容出来る状況に徐々に整備されつつあった。しかし、最大規模の役場・公民館避難所(約500名収容)では、依然高い人口密度とプライバシーの欠如、劣悪な衛生環境等で大幅な改善が必要とされていた。

避難者数は、被災16日後の3月26日には約3,000名であり、被災後一ヶ月後の時点でも、依然として約1,700名もの人が避難所で生活をしていた。しかし、被災約一ヶ月後の4月4日(月)に実施された町外への二次避難希望

者は約100名に留まり、多くの町民が町に留まり再建を希望しているように見受けられた。仮設住宅は既に町の山側で着工されており、5月には第一陣として70戸の入居を予定していたが、1000名を超える避難者が全員仮設住宅に入居出来るまでには、まだかなりの時間がかかると想定された。宮城病院では、看護師派遣は継続して実施されていたものの、大学派遣の一部の診療科を除きほぼ正常の外来・入院を行えるまでに回復していた。

また、山元町では宮城県から派遣の国立病院機構東尾張病院のメンタルヘルスチームが連日被災者のケアを行っていた。

宮城県における医療班の活動終了

(1) 宮城野区での活動終了

宮城県内での3つの地域での医療班活動のうち、宮城野区の3箇所の避難所の巡回については、地区の医師会から仙台医療センターに対して高砂中学に常設の救護所の設置要請があったため、3月20日(日)より仙台医療センターにて対応し、3月19日(土)をもって県外からの医療班の派遣を終了した。

なお、高砂中学校での常設救護所は診療ニーズがなくなった3月31日(木)(4名を診療)に閉鎖した。

①東広島医療センター（仙台市岡田小学校）



②福岡東医療センター（仙台医療センターの支援）

③高知病院（東松島市中下地区保健センター）

④神戸医療センター（仙台医療センターの支援）



(2) 鳴瀬地区の活動の終了

東松島市鳴瀬地区の医療班活動については、約12箇所の避難所を3日に一度巡回する形で毎日4箇所の避難所を、国際医療研究センターと国立病院機構の医療班計2班が各2箇所を巡回する体制であったが、4月21日(木)より長期処方への移行に伴い1週間に一回巡回する体制へと変更となり、医療班1班で十分であることから、医療コーディネーターを派遣している国際医療研究センターの医療班1班に委ねる形で、4月27日(水)(地域の2箇所の避難所を巡回して18名を診療)をもってNHO医療班の活動は終了した。

(3) 山元地区での活動終了

4月末には、宮城県庁より医療班の継続派遣の可否を問う調査があり、山元町について医療ニーズがあれば継続派遣が可能である旨を4月25日(月)に伝達した。それを受け同日付で国立病院機構に対して、5月1日から6月30日までの災害救助法に基づく援助の依頼である「医療

救護班の派遣の継続について(依頼)」が宮城県知事より出された。

その後、診療ニーズの減少に伴い、4月28日(木)より毎朝開催していた宮城病院での自治体・医師会を交えた合同会議を中止するとともに、5月9日(月)(地域の4箇所の避難所のうち、4箇所を巡回して17名を診療)をもって、医療班による巡回診療等の活動を終了した。派遣されたのは、3月20日(日)以降、16チーム80名であり、延2187名の診療を実施し、1日平均患者数は約45人であった。

なお、活動終了翌日の5月10日(火)には、山元町の町長及び副町長が、宮城病院院長、北海道東北ブロック事務所統括部長、医療課長に面会し、国立病院機構の支援に対して謝意が述べられた。医療班活動終了を受け、宮城県のNHO現地対策本部を5月17日(火)に終了した。現地対策本部には、3月14日(月)から約2か月の間に、本部、非被災ブロックの事務職員延べ70名が派遣された。

- ⑤ 四国がんセンター (鳴瀬第一中学校)
- ⑥ 嬉野医療センター
- ⑦ 岩国医療センター (中下地区センター)



- ⑧ 山元町町長との面談
- ⑨ 岡山医療センター (鳴瀬第一中学校)
- ⑩ 福山医療センター (東松島市市民の森野外活動センター)
- ⑪ 真庭区公民館前の桜
- ⑫ 長崎医療センター・鹿児島医療センター (医療班引継ぎ)



【宮城県でのNHO医療班の活動】

(3月15日～3月25日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月15日(火)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	横浜医療センター、大阪医療センター、神戸医療センター
3月16日(水)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	横浜医療センター、大阪医療センター、神戸医療センター
3月17日(木)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	大阪医療センター、南和歌山医療医療センター
		岡田小学校	避難所の巡回、診療	岡山医療センター、東広島医療センター
		高砂中学校、鶴巻小学校	//	東広島医療センター
		中野栄小学校、田子小学校、仙台市コミュニティセンター	//	岡山医療センター
3月18日(金)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	大阪医療センター、南和歌山医療医療センター、東広島医療センター
		岡田小学校	避難所の巡回、診療(約80名)	南和歌山医療センター、東広島医療センター、仙台医療センター
		高砂中学校、鶴巻小学校	避難所の巡回、診療、医療二一ズの聴取	南和歌山医療センター、東広島医療センター
	東松島市	鳴瀬第一中学校	避難所の巡回、診療(82名)	岡山医療センター
3月19日(土)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	大阪医療センター、南和歌山医療医療センター
		岡田小学校、鶴巻小学校	避難所の巡回、診療(102名)	東広島医療センター、仙台医療センター
		高砂中学校	避難所の巡回、診療(2名)	東広島医療センター
	東松島市	矢本第二中学校、小野市民センター、鳴瀬第一中学校	避難所の巡回診療(13名)	岡山医療センター
		浅井地区センター、上下堤農村創作活動センター、定林寺、中下地区センター、矢本健康相談センター	避難所の巡回、診療(64名)	南和歌山医療センター
	亶理郡	亶理高校、亶理中学校	避難所の巡回、診療(28名)	長崎医療センター
3月20日(日)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療(32名)	福岡東医療センター
		岡田小学校、鶴巻小学校、高砂中学校	避難所の巡回、診療(31名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、鳴瀬第一中学校	避難所の巡回、診療(87名)	大阪医療センター
	亶理郡	山元町役場、坂元中学校、坂元支所、真庭区民会館、高瀬多目的センター、合戦原学堂、老人憩いの家、久保間生活センター	避難所の巡回、診療(93名)	長崎医療センター
3月21日(月)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	福岡東医療センター
		高砂中学校	救護所での診療(37名)	仙台医療センター
	東松島市	鳴瀬第一中学校、定林寺、往還地区センター	避難所の巡回、診療(50名)	大阪医療センター
	亶理郡	山元町役場、真庭区民会館、坂元中学校、坂元支所、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(118名)	長崎医療センター
3月22日(火)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(41名)	仙台医療センター
		大塚地区コミュニティセンター、定林寺	避難所の巡回、診療(70名)	大阪医療センター
	東松島市	矢本健康相談センター	市保健師、国際医療研究センターに報告	//
	亶理郡	中央公民館、山元町役場、坂元支所、坂元中学校、合戦原学堂、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(135名)	福岡東医療センター、鹿児島医療センター
3月23日(水)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(31名)	仙台医療センター
	東松島市	上下堤農村創作活動センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(21名)	呉医療センター
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(93名)	鹿児島医療センター
3月24日(木)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(35名)	仙台医療センター
	東松島市	小野市民センター、ケアハウスはまなすの里	避難所の巡回、診療(44名)	呉医療センター
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家、浅生原避難所	避難所の巡回、診療(93名)	鹿児島医療センター
3月25日(金)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(28名)	仙台医療センター
	東松島市	上下堤農村創作活動センター、大塚地区コミュニティセンター	避難所の巡回、診療(57名)	呉医療センター
	亶理郡	中央公民館、山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(76名)	鹿児島医療センター

(3月26日～4月8日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月26日(土)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(27名)	仙台医療センター
	東松島市	中下地区センター、川下地区センター	避難所の巡回、診療(27名)	函館病院
	亘理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(63名)	九州医療センター
3月27日(日)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(9名)	仙台医療センター
	東松島市	デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(20名)	函館病院
	亘理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(78名)	熊本医療センター
3月28日(月)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(12名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、浅井地区センター	避難所の巡回、診療(51名)	函館病院
	亘理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(76名)	熊本医療センター
3月29日(火)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(10名)	仙台医療センター
	東松島市	上下堤農村創作活動センター、中下地区センター	避難所の巡回、診療(32名)	関門医療センター
	亘理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(46名)	熊本医療センター
3月30日(水)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(5名)	仙台医療センター
	東松島市	川下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(39名)	関門医療センター
	亘理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(66名)	熊本医療センター
3月31日(木)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(4名)	仙台医療センター
	東松島市	品井沼農村環境改善センター、浅井地区センター	避難所の巡回、診療(43名)	関門医療センター
	亘理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(62名)	福岡東医療センター
4月1日(金)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(4名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(49名)	広島西医療センター
	亘理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(65名)	福岡東医療センター
4月2日(土)	東松島市	中下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(30名)	広島西医療センター
	亘理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(65名)	福岡東医療センター
4月3日(日)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、川下地区センター	避難所の巡回、診療(40名)	広島西医療センター
	亘理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(56名)	福岡東医療センター
4月4日(月)	東松島市	上下堤農村創作活動センター、大塚地区コミュニティセンター	避難所の巡回、診療(42名)	愛媛病院
	亘理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(49名)	別府医療センター、災害医療センター
4月5日(火)	東松島市	中下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(28名)	愛媛病院
	亘理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(55名)	別府医療センター、災害医療センター
4月6日(水)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、川下地区センター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(54名)	愛媛病院
	亘理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(60名)	別府医療センター、災害医療センター
4月7日(木)	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(33名)	浜田医療センター
	亘理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(30名)、衛生指導	別府医療センター、災害医療センター
4月8日(金)	東松島市	中下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(33名)	浜田医療センター
	亘理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(49名)	嬉野医療センター

(4月9日～4月22日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
4月9日(土)	仙台市	宮城野体育館	救護室の設置、避難所の巡回 (受診者なし)	仙台医療センター
	東松島市	品井沼農村環境改善センター、川下地区センター、町民の森 野外活動センター	避難所の巡回、診療(57名)	浜田医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(42名)、衛 生指導	嬉野医療センター
4月10日(日)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(2名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(38名)	岩国医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(26名)	嬉野医療センター
4月11日(月)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(4名)	仙台医療センター
	東松島市	中下地区センター	避難所の巡回、診療(24名)	岩国医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(36名)	嬉野医療センター
4月12日(火)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(2名)	仙台医療センター
	東松島市	品井沼農村環境改善センター、町民の森野外活動センター、 川下地区センター	避難所の巡回、診療(49名)	岩国医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(34名)	福岡病院
4月13日(水)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(2名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動セン ター	避難所の巡回、診療(36名)	福山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(31名)	福岡病院
4月14日(木)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(7名)	仙台医療センター
	東松島市	中下地区センター、品井沼農村環境改善センター	避難所の巡回、診療(30名)	福山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(35名)	福岡病院
4月15日(金)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(8名)	仙台医療センター
	東松島市	川下地区センター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(26名)	福山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(30名)	福岡病院
4月16日(土)	東松島市	鳴瀬第一中学校、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(11名)	四国がんセンター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回診療(37名)、衛 生指導	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月17日(日)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、中下地区センター	避難所の巡回、診療(41名)	四国がんセンター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(34名)	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月18日(月)	東松島市	川下地区センター	避難所の巡回、診療(15名)	四国がんセンター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(33名)	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月19日(火)	東松島市	鳴瀬第一中学校、川下地区センター	避難所の巡回、診療(9名)	高知病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(19名)	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月20日(水)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、中下地区センター	避難所の巡回、診療(15名)	高知病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(34名)	九州がんセンター
4月21日(木)	東松島市	川下地区センター、定林寺	避難所の巡回、診療(22名)	高知病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(18名)	九州がんセンター
4月22日(金)	東松島市	町民の森野外活動センター、鳴瀬第一中学校	避難所の巡回、診療(21名)	岡山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(23名)	九州がんセンター

(4月23日～5月9日)

日付	活動場所	活動内容	医療班を編成している機構病院
4月23日(土)	東松島市 品井沼農村環境改善センター、浅井地区センター	避難所の巡回、診療(30名)	岡山医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(38名)	九州がんセンター
4月24日(日)	東松島市 ケアハウスはまなすの里	避難所の巡回、診療(6名)	岡山医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(15名)	熊本再春荘病院
4月25日(月)	東松島市 大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(27名)	呉医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(21名)	熊本再春荘病院
4月26日(火)	東松島市 中下地区センター、往還地区センター	避難所の巡回、診療(23名)	呉医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(23名)	熊本再春荘病院
4月27日(水)	東松島市 牛網地区学習等供用施設、定林寺、戸別訪問調査	避難所の巡回診療(18名)、14戸訪問	呉医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(30名)	熊本再春荘病院
4月28日(木)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(18名)	小倉医療センター
4月29日(金)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(27名)	小倉医療センター
4月30日(土)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(11名)	小倉医療センター
5月1日(日)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(15名)	小倉医療センター
5月2日(月)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(14名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月3日(火)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(17名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月4日(水)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(23名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月5日(木)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(33名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月6日(金)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(18名)	宮崎東病院
5月7日(土)	亘理郡 中央公民館、坂元中学校	避難所の巡回、診療(15名)	宮崎東病院
5月8日(日)	亘理郡 中央公民館、坂元中学校	避難所の巡回、診療(7名)	宮崎東病院
5月9日(月)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(17名)	宮崎東病院

1-2 医療班の派遣

(2) 岩手県における医療班の活動

被災4日目の3月14日に病院を出発した医療班第一陣3班（名古屋医療センター、金沢医療センター、東名古屋病院）が翌15日から活動を開始した。以降、主に関東信越ブロック、東海北陸ブロック管内の病院から医療班を継続的に派遣し、釜石市唐丹地区、下閉伊郡山田

町等における救護活動に従事した。

国立病院機構への直接の要請の他にも、所在する地方自治体からの要請を受けた4病院（旭川医療センター、千葉医療センター、静岡医療センター、南和歌山医療センター）から4班、20名を岩手県に派遣した。

【岩手県へのNHO医療班派遣スケジュール】

病院名	3月																															4月		
	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日													
1 名古屋医療センター①	移動				引継 帰路																													
2 金沢医療センター①	移動				引継 帰路																													
3 東名古屋病院①	移動				引継 帰路																													
4 静岡てんかん・神経医療センター			移動				引継 帰路																											
5 西新潟中央病院			移動				引継 帰路																											
6 三重中央医療センター①			移動				引継 帰路																											
7 北海道医療センター				移動				引継	移動																									
8 名古屋医療センター②				移動				引継 帰路																										
9 三重病院①					移動				引継 帰路																									
10 豊橋医療センター①						移動				引継 帰路																								
11 名古屋医療センター③							移動				引継 帰路																							
12 医王病院								移動				引継 帰路																						
13 普通寺病院								移動					引継 帰路																					
14 東京医療センター①									移動					引継 帰路																				
15 長良医療センター①									移動						引継 帰路																			
16 名古屋医療センター④										移動						引継 帰路																		
17 三重中央医療センター②											移動						引継 帰路																	
18 東名古屋病院②												移動						引継 帰路																
19 東京医療センター②													移動 引継						引継 帰路															
20 富山病院														移動						引継 帰路														
21 名古屋医療センター⑤															移動						引継 帰路													
22 金沢医療センター②																移動					引継 帰路													
23 静岡医療センター①																	移動				引継 帰路													
24 天竜病院																		移動				引継 帰路												
25 名古屋医療センター⑥																			移動			引継 帰路												
26 三重中央医療センター③																				移動														
27 長寿医療センター																					移動													
28 東名古屋病院③																						移動												
29 名古屋医療センター⑦																							移動											
30 長良医療センター②																								移動										
31 豊橋医療センター②																									移動									

①名古屋医療センター（山田町山田南小学校）

②長良医療センター（山田町山田南小学校）

③東京医療センター（山田町山田南小学校）

④医王病院（釜石市山谷集会所）



病院名	4月																							
	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日			
28 東名古屋病院③	引継 帰路																							
29 名古屋医療センター⑦		引継 帰路																						
30 長良医療センター②			引継 帰路																					
31 豊橋医療センター②				引継 帰路																				
32 名古屋医療センター⑧	移動				引継 帰路																			
33 静岡医療センター②		移動			引継 帰路																			
34 三重病院②			移動			引継 帰路																		
35 名古屋医療センター⑨				移動					引継 帰路															
36 三重中央医療センター④					移動				引継 帰路															
37 長寿医療センター						移動				引継 帰路														
38 金沢医療センター③								移動				引継 帰路												
39 名古屋医療センター⑩									移動				引継 帰路											
40 豊橋医療センター③										移動			引継 帰路											
41 名古屋医療センター⑪												移動						引継 帰路						
42 名古屋医療センター⑫																	移動				帰路			

【地方自治体からの要請による医療班派遣】

病院名	活動地域	活動期間	主な活動内容
旭川医療センター	山田町	5月15日～5月21日	救護所での診療活動
千葉医療センター	陸前高田市	5月15日～5月17日	//
静岡医療センター	宮古市	4月29日～5月3日	//
南和歌山医療センター	宮古市	5月16日～5月18日	//

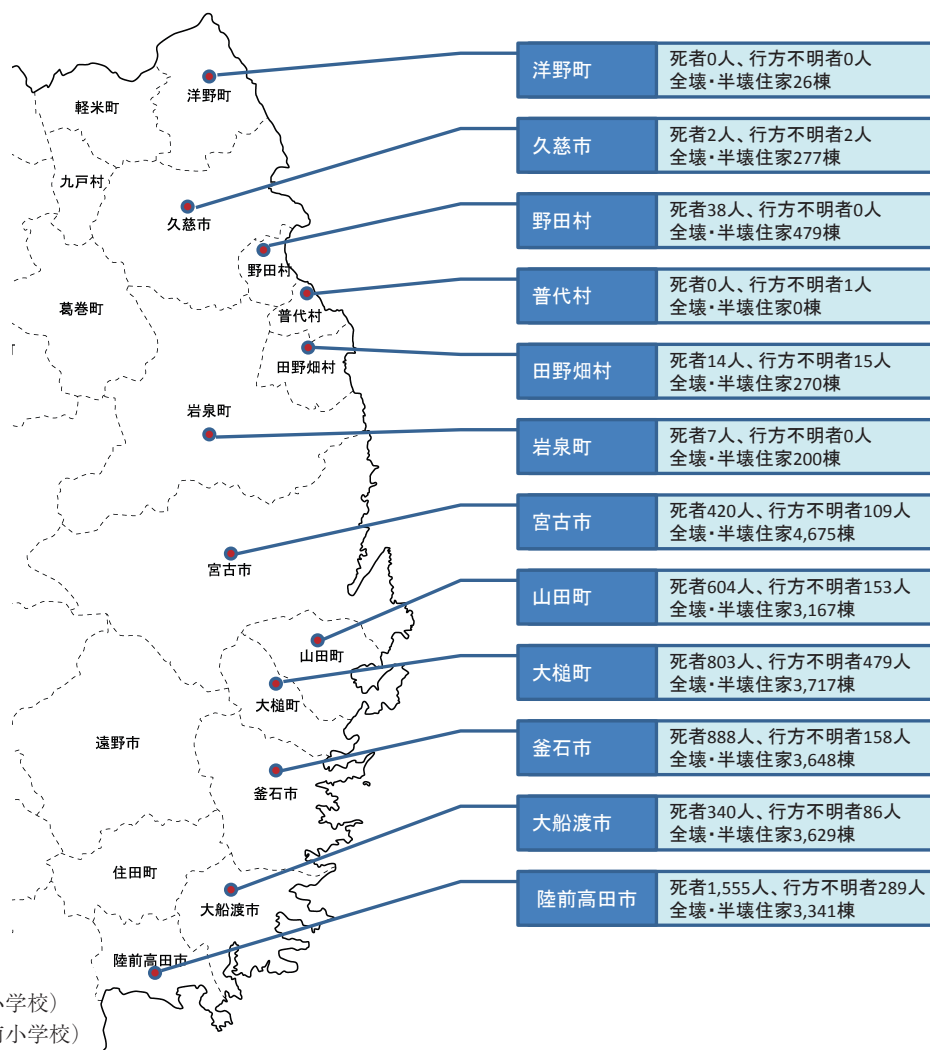


- ⑤ 名古屋医療センター（山田町山田南小学校）
- ⑥ 三重中央医療センター（釜石市市民交流センター）
- ⑦ 三重病院（釜石市白山小学校）
- ⑧ 旭川医療センター（山田町保健センター）
- ⑨ 千葉医療センター（陸前高田市東部デイサービスセンター）
- ⑩ 名古屋医療センター（山田町）
- ⑪ 金沢医療センター（山田町山田南小学校）



【岩手県の被害状況】

死者： 4,671 人
行方不明者： 1,302 人
家屋倒壊数： 24,747 棟



- ①金沢医療センター（山田町山田南小学校）
- ②名古屋医療センター（山田町山田南小学校）
- ③山田町医療班の全体ミーティング
- ④北海道医療センター（山田町武徳殿）
- ⑤金沢医療センター（ガソリン補充）
- ⑥豊橋医療センター（山田町山田南小学校）
- ⑦千葉医療センター（東部デイサービスセンター）
- ⑧旭川医療センター（山田町保健センター）

平成24年3月2日現在（岩手県公表資料より）



釜石市唐丹地区等

(1) 人口：約 3.3 万人（釜石市全体）

(2) 避難所：9（唐丹地区）

施設名	避難者数
白山小学校	200
大平中学校	150
大平集会所	25
松原コミュニティ防災センター	160
釜石市民交流センター	200
漁村センター	100
本郷コミュニティセンター	40
片川集会所	43
山谷集会所	50
荒川集会所	60
天照神社	80

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

(3) 活動医療班：NHO 医療班 1 班

岩手県に医療班が到着した被災5日目の3月15日（火）の時点では、岩手県庁でも被災地の避難所の状況や医療ニーズの詳細は把握できておらず、陸前高田市は日赤

のチームが、県立病院のある大船渡市には岩手医科大学のチームが主体となって医療支援をしている状況であった。そのため、花巻病院を活動拠点として、独自に県内を調査し医療ニーズの情報収集にあたった。

釜石市では、人口3.3万人のうち死者行方不明者は約千人、避難者は約6千人という状況であった（3月20日市対策本部発表）。3月15日（火）の時点で、既に自衛隊と日赤のチームが入っており、他の医療チームは支援の入っていない地域を求めて殺到している状況であった。

国立病院機構としては、花巻病院から釜石病院に活動拠点を移し、3月16日（水）より3月20日（日）までの5日間は、釜石市の松原・大平地区での巡回診療を実施するとともに、3月22日（火）からは、釜石市唐丹地区での巡回診療を開始した。

(4) 活動経過

3月15日：保健所より地域の被災状況を調査

3月16日：松原・大平地区での巡回診療開始

3月20日：松原・大平地区での巡回診療終了

3月30日：唐丹地区での巡回診療終了

① 三重中央医療センター（特別養護老人ホームあいぜんの里）

② 三重中央医療センター（荒川集会所）

③ ④ 東名古屋病院

⑤ 医王病院（山谷集会所）

⑥ 医王病院

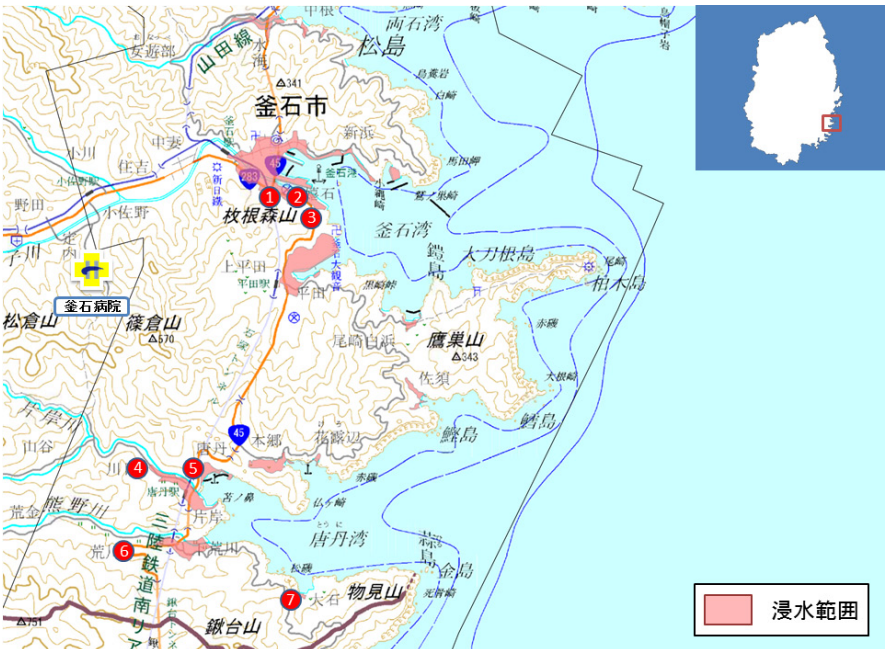
⑦ 三重病院（大平集会所）

⑧ 三重病院（白山小学校）



【釜石市での主な活動地域】

- ① 釜石市民交流センター
- ② 白山小学校
- ③ 大平中学校
- ④ 小白浜愛恵会
- ⑤ 片川集会所
- ⑥ 荒川集会所
- ⑦ 大石地域交流センター



浸水範囲概況図：国土地理院

山田町（岩手県下閉伊郡）

- (1) 人口：約 1.8 万人
- (2) 死亡・行方不明者：約 740 人
- (3) 被害家屋：約 3,340 棟（被災率 55.5%）
- (4) 避難所数：32（避難者約 4,200 人）
- (5) 活動医療班：国立病院機構1班
日赤、昭和大、自衛隊等5班
(3月15日時点)

避難所	避難者数
山田南小学校	854
織笠コミュニティセンター	147
織笠小学校	225
織笠保育所	19
さくら幼稚園	200
中央コミュニティセンター	50
関口児童館	30
武徳殿	120

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

釜石市での活動は医療班1班程度の医療ニーズであったため、他の活動場所を求めて、被災6日目の3月

16日(水)に山田町にて調査を実施した。

山田町では、被災直後より地域の3人の開業医が、高台にあり津波をまぬがれ避難所となっている山田南小学校にて診療を実施している状況であった。

3月16日(水)からは、日赤と昭和大のチームが診療を開始したばかりであったが、更なる医療ニーズが求められていた。

こうしたことから、3月17日(木)より山田南小学校の朝の打ち合わせに参加し、救護所の支援活動に加わることとなった。救護所での診療は山田南小学校避難者のほか、周辺の被災者もバスで来診した。また、日赤、自衛隊、昭和大学と分担し他の避難所への巡回診療をあわせて行った。

山田町の唯一の病院である県立山田病院は、津波により1階が被害を受け入院機能を失っており再開の目途が立っていなかった。このため、インフルエンザや感染性腸炎の患者は山田南小学校から約30km離れた県立宮古病院まで救急車により搬送された。宮古病院では外部からの支援を受けていたものの、周囲の県立病院が被災しているため患者が集中していた。



岩手県下閉郡山田町：
平成23年9月16日撮影
(国土地理院)

(6) 活動経過

- 3月16日：山田町の被災状況を調査
町長から今後の支援を依頼
(日赤、昭和大にて活動開始)
- 3月17日：山田南小学校での打合せ参加
山田南小学校での診療開始(4班体制)
岩手県庁に活動を報告
活動拠点を花巻病院より山田町へ移動
- 3月18日：県庁の会議に参加開始
- 3月28日：医療班を3班体制に変更
- 4月15日：山田南小学校救護所が閉鎖
医療班を1班体制に変更
- 4月22日：山田町での支援活動を終了

(7) いわて災害医療ネットワークの県庁会議

「いわて災害医療ネットワーク」の会議が岩手県庁内で県地域医療推進課、岩手医科大学、日赤、自衛隊、県医師会等のメンバーとして毎日行われていた。国立病院機構は山田町の担当機関となっていることから、NHO現地対策本部岩手支部のメンバーが出席し、山田南小学校での医療班全体ミーティングの状況を報告するとともに、岩手県全体の動きを情報収集した。会議に出席するに当たっては、盛岡病院から一室を借り、本部職員の拠点とした。

また、山田南小学校では、電子メールが使える環境にないことから、車で釜石病院まで移動し、釜石病院内に設置したNHO現地対策本部岩手支部に全体ミーティングの状況を報告した。

【山田南小学校での活動の様子】



- ① 東京医療センター
- ② 名古屋医療センター
- ③ 西新潟中央病院
- ④ 三重中央医療センター
- ⑤ 静岡医療センター

- ⑥ 天竜病院
- ⑦ 静岡てんかん・神経医療センター
- ⑧ 善通寺病院
- ⑨ 豊橋医療センター

【山田町での主な活動地域】

- ① 山田北小学校
- ② 善慶寺
- ③ 中央コミュニティセンター
- ④ 山田南小学校
- ⑤ 織笠コミュニティセンター
- ⑥ 織笠保育所
- ⑦ 織笠小学校



浸水範囲概況図：国土地理院



⑩ 名古屋医療センター
⑪ 東名古屋病院
⑫ 富山病院
⑬ 東京医療センター

⑭ 静岡医療センター
⑮ 長良医療センター
⑯ 静岡てんかん・神経医療センター
⑰ 豊橋医療センター
⑱ 名古屋医療センター

岩手県における医療班の活動終了

(1) 唐丹地区での活動終了

釜石市唐丹地区の診療活動は、医療ニーズが減少した為、4月2日(土)(地域の8箇所の避難所の内の3箇所を巡回し37名診療)を最後に、巡回診療を終了した。

(2) 山田町での活動終了

山田町の活動では、4月11日(月)に地域の開業医による診療が再開するとともに、4月15日(金)に活動の拠点としていた山田南小学校の授業再開に伴い救護所が閉鎖となったため、4月22日(金)の名古屋医療センター医療班を最後に(3箇所巡回にて診療5名)、引き続き残る他の設置主体から派遣されている6班の医療班に地域での救護活動を引き継ぎ、山田町での活動を終了した。同日、現地対策本部岩手県支部も撤収した。



① 山田南小学校(保健室)
② 〃 (1-1)
③ 〃 (3-2)

【岩手県でのNHO医療班の活動】

(3月16日～3月29日)

日付	活動場所	活動内容	医療班を編成している機構病院
3月16日(水)	釜石市 白山小学校、大平中学校、松原地区、平田地区	避難所の巡回、診療	東名古屋病院
3月17日(木)	釜石市 釜石市民交流センター、白山小学校、大平集会所、大平中学校 等	避難所の巡回、診療	東名古屋病院
	山田南小学校	救護所での診療	名古屋医療センター、金沢医療センター
	下閉伊郡 山田地区避難所(織笠コミュニティセンター、織笠小学校、織笠保育園 等)	避難所の巡回、診療	金沢医療センター
3月18日(金)	釜石市 松原地区、大平地区の避難所5カ所	避難所の巡回、診療(39名)	三重中央医療センター
	山田南小学校	救護所での診療	名古屋医療センター、北海道医療センター、西新潟中央病院
	下閉伊郡 山田地区避難所(織笠コミュニティセンター、織笠小学校、織笠保育園 等)	避難所の巡回、診療	静岡てんかん・神経医療センター
3月19日(土)	釜石市 釜石市民交流センター、白山小学校、大平中学校	避難所の巡回、診療(84名)	三重中央医療センター、三重病院
	山田南小学校	救護所での診療(328名)	北海道医療センター、名古屋医療センター、西新潟中央病院
	山田町全域	てんかん患者の巡回、診療	静岡てんかん・神経医療センター
3月20日(日)	釜石市 釜石市民交流センター、松原コミュニティ消防センター、大平集会所	避難所の巡回、診療(86名)	三重病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(290名)	北海道医療センター、名古屋医療センター、静岡てんかん・神経医療センター、豊橋医療センター
	山田町中央コミュニティセンター、関口児童館	避難所の巡回、診療	豊橋医療センター
3月21日(月)	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(174名)	北海道医療センター、名古屋医療センター、豊橋医療センター、三重病院
	山田地区避難所2カ所(さくら幼稚園、武徳殿)	避難所の巡回、診療(2名)	豊橋医療センター
3月22日(火)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(5名)	医王病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(316名)	名古屋医療センター、豊橋医療センター、善通寺病院
	山田地区避難所2カ所(山田小体育館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(5名)	名古屋医療センター
3月23日(水)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(53名)	医王病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(291名)	東京医療センター、名古屋医療センター、長良医療センター、善通寺病院
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(10名)	善通寺病院
3月24日(木)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(85名)	医王病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(267名)	東京医療センター、名古屋医療センター、長良医療センター、善通寺病院
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(10名)	善通寺病院
3月25日(金)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(34名)	医王病院、三重中央医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(237名)	東京医療センター、名古屋医療センター、東名古屋病院、長良医療センター
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(10名)	東京医療センター
3月26日(土)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(46名)	三重中央医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(205名)	東京医療センター、名古屋医療センター、東名古屋病院、富山病院
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(11名)	東京医療センター
3月27日(日)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(67名)	三重中央医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(148名)	東京医療センター、名古屋医療センター、東名古屋病院、富山病院
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(8名)	東京医療センター
3月28日(月)	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(15名)	金沢医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(226名)	名古屋医療センター、富山病院、静岡医療センター
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	東京医療センター、静岡医療センター
3月29日(火)	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、クロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(33名)	金沢医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(253名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、天竜病院
	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(12名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、天竜病院

(3月30日～4月22日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月30日(水)	釜石市	唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(44名)	金沢医療センター
		山田南小学校	救護所での診療(263名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、天竜病院
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
3月31日(木)	釜石市	唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(20名)	長寿医療研究センター
		山田南小学校	救護所での診療(234名)	名古屋医療センター、天竜病院、三重中央医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
4月1日(金)	釜石市	唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(32名)	長寿医療研究センター
		山田南小学校	救護所での診療(235名)	名古屋医療センター、三重中央医療センター、東名古屋病院
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(10名)	//
4月2日(土)	釜石市	唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(37名)	長寿医療研究センター
		山田南小学校	救護所での診療(160名)	名古屋医療センター、三重中央医療センター、東名古屋病院
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(11名)	//
4月3日(日)		山田南小学校	救護所での診療(117名)	名古屋医療センター、東名古屋病院、長良医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
4月4日(月)		山田南小学校	救護所での診療(243名)	名古屋医療センター、長良医療センター、豊橋医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
4月5日(火)		山田南小学校	救護所での診療(211名)	名古屋医療センター、長良医療センター、豊橋医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(10名)	//
4月6日(水)		山田南小学校	避難所の巡回、診療(220名)	豊橋医療センター、名古屋医療センター、静岡医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(15名)	//
4月7日(木)		山田南小学校	救護所での診療(246名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、三重病院
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(10名)	//
4月8日(金)		山田南小学校	救護所での診療(270名)	静岡医療センター、三重病院、名古屋医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
4月9日(土)		山田南小学校	救護所での診療(166名)	三重病院、名古屋医療センター、三重中央医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
4月10日(日)		山田南小学校	救護所での診療(117名)	名古屋医療センター、三重中央医療センター、長寿医療研究センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(12名)	//
4月11日(月)		山田南小学校	救護所での診療(182名)	三重中央医療センター、名古屋医療センター、長寿医療研究センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(12名)	//
4月12日(火)		山田南小学校	救護所での診療(116名)	名古屋医療センター、金沢医療センター、長寿医療研究センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(13名)	//
4月13日(水)		山田南小学校	救護所での診療(129名)	名古屋医療センター、金沢医療センター、豊橋医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(14名)	//
4月14日(木)		山田南小学校	救護所での診療(148名)	名古屋医療センター、金沢医療センター、豊橋医療センター
	下閉伊郡	山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(11名)	//
4月15日(金)	下閉伊郡	山田南小学校	救護所での診療(127名)	名古屋医療センター、豊橋医療センター
		山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回(受診者なし)	//
4月16日(土)	下閉伊郡	織笠コミュニティセンター	避難所の巡回、診療(7名)	名古屋医療センター
4月17日(日)	下閉伊郡	山田南小学校、さくら幼稚園	避難所の巡回、診療(11名)	名古屋医療センター
4月18日(月)	下閉伊郡	善慶寺周辺、関口児童館、山田北小学校	避難所の巡回、診療(4名)	名古屋医療センター
4月19日(火)	下閉伊郡	織笠コミュニティセンター、さくら幼稚園、山田南小学校	避難所の巡回、診療(13名)	名古屋医療センター
4月20日(水)	下閉伊郡	関口児童館、山田南小学校	避難所の巡回、診療(1名)	名古屋医療センター
4月21日(木)	下閉伊郡	織笠保育園、織笠コミュニティセンター、織笠小学校	避難所の巡回、診療(3名)	名古屋医療センター
4月22日(金)	下閉伊郡	さくら幼稚園、山田南小学校、めぐみの里「眺望」あすなろ園、山田北小学校、武徳殿	避難所の巡回、診療(5名)	名古屋医療センター

1-2 医療班の派遣

(3) 福島県における医療班等の活動

福島県では、既述の山元町の南に隣接する福島県相馬郡新地町にて3月20日より医療班による巡回診療を実施した。

新地町は、地震・津波による被害を受け、被災直後は町内の5箇所の避難所に1,000名近い避難者を収容していた。

そのため、震災後の初期にはいくつかの援助者が入った模様であるが、他の地域と比較して医療ニーズが必ずしも大きくないという判断から、いずれも早期に撤退してしまった。他方、新地町の南には相馬市、さらに南には南相馬市があり、原発事故とその後の住民避難などの混

乱のなか、行政や援助者の注意がこの町には向きにくい状況にあった。また、この町は宮城病院のある山元町から車で15分程の距離にあり、多くの住民が震災以前より宮城病院を受診していたことから、国立病院機構は、宮城病院の意向を受けて、新地町の状況を評価して医療ニーズを認めたため、3月20日より避難所への巡回診療を開始した。

また、北海道庁からの依頼により、北海道医療センターでは3月27日～4月1日までの間、白河市及びその近郊市町村の避難所において巡回診療等を行った。

新地町（相馬郡）

- (1) 人口：8,500人
- (2) 避難所：5箇所 900人（3月21日時点）
うち 国立 5箇所
- (3) 活動医療班：1班（3月20日～3月26日）

避難所	避難者数
新地小学校	450
尚栄中学校	200
保健センター	150
福田小学校	100
駒ヶ嶺	15

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

(4) これまでの活動経過

- 3月20日：宮城病院より新地地区の通院患者の情報がないと連絡
新地町にて町長より支援要請を受け活動開始
- 3月21日：大阪南医療センター班による巡回診療
- 3月22日：大阪南医療センター班による巡回診療
特別養護老人ホームで診療
地元の開業医である遠藤医師と意見交換
- 3月23日：福岡東医療センター班による巡回診療
特別養護老人ホームに支援物資搬送(栄養剤等)
- 3月24日：九州医療センター班による巡回診療
- 3月25日：新地町での支援活動を終了

①大阪南医療センター（新地小学校）



②九州医療センター（新地町保健センター）

③福岡東医療センター（新地小学校）

④北海道医療センター（国立那須甲子青少年自然の家）

⑤北海道医療センター（矢吹町農業短期大学校）

(5) 宮城病院との連携

新地町は、医療圏域としては福島県相馬市を中心とする医療圏域に属するが、宮城県山元町にある宮城病院から車で15分程に位置するため、避難所には宮城病院に罹りつけの患者が多い。ガソリン供給不足より、宮城病院へ通えず、薬の継続処方を受け取れない避難者には、ID番号、名前、生年月日及び不足医薬品名等を医療班が聴取し、活動終了後に宮城病院へ伝え、翌朝の活動前に医療班が処方薬を受け取り、保健センターの保健師に渡す運用を行った。

(6) 地域の保健活動等

町役場に保健師は3名で、リーダー1名の他の2人は毎日避難所をペアで巡回していた。医療班は活動終了後には、保健センターのリーダー保健師に状況を伝え、翌日の活動内容を確認した。

(7) 医療機関

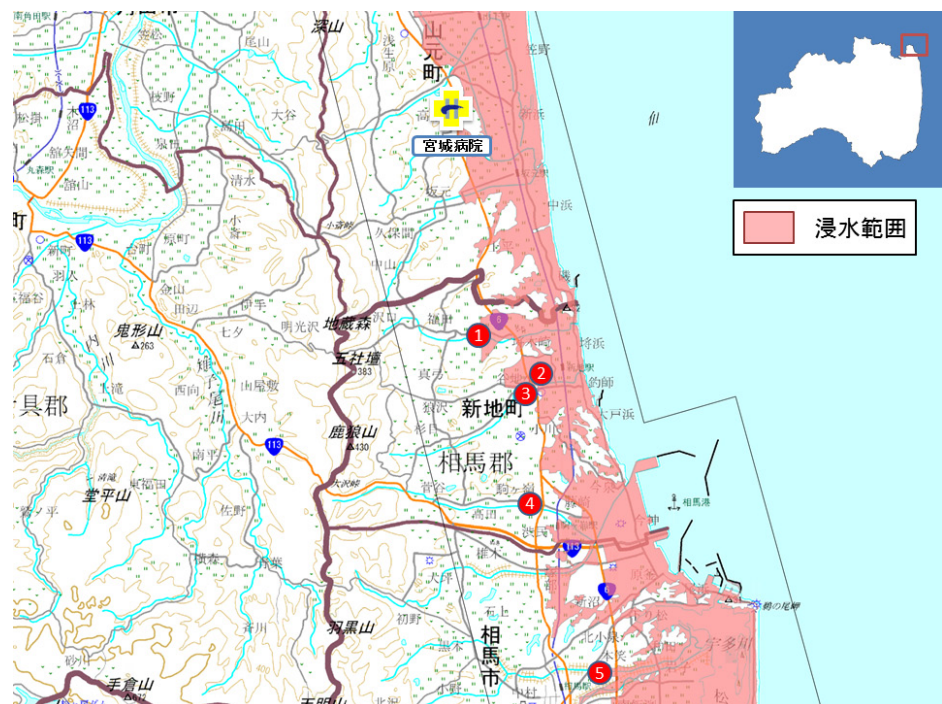
新地町には病院はなく、2箇所の開業医が震災前はあったが、1診療所は閉院し、1診療所は午前中のみの診療という状況であった。

(8) 新地町での活動終了

福島県相馬郡新地町での活動は、診療ニーズの減少と、横須賀共済病院と三井記念病院他からの2チームの医療班が福島県庁より派遣され、交替で2泊3日滞在し、原則24時間診療を開始するとともに、町内の2つの開業医も徐々に診療を再開したことから、3月26日(土)(地域の4つの避難所全てを巡回し32名診療)をもって他から派遣された医療班に引き継ぎ、機構は医療班の派遣を終了した。

【新地町での主な活動地域】

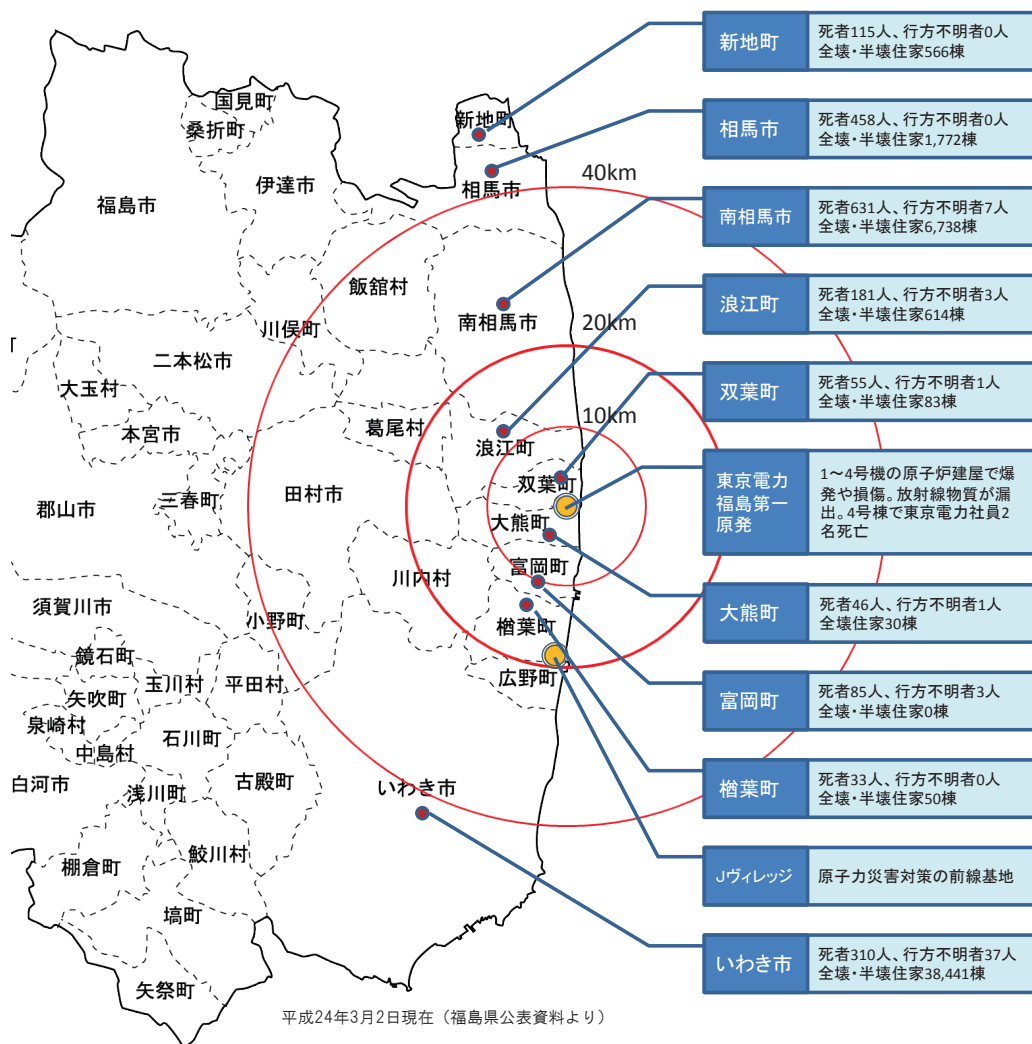
- ① 福田小学校
- ② 新地町役場(保健センター)
- ③ 新地小学校、尚英中学校
- ④ 駒ヶ嶺避難所
- ⑤ 相馬東高校



浸水範囲概況図：国土地理院

【福島県の被害状況】

死者：1,957人
 行方不明者：54人
 全壊住家：20,136棟
 半壊住家：65,093棟



- ① 横浜医療センター、下志津病院、相模原病院（いわき開成病院館）
- ② 四国がんセンター（きわき保健所）
- ③ 岩国医療センター（石川町総合体育館）
- ④ 下志津病院（小名浜第二中学校）
- ⑤ 大阪南医療センター（仙台医療センター内でのミーティング）



放射線スクリーニング班の活動

3月12日(土)には、東京電力福島第一原発1号機の爆発を受け、半径20km圏内の住民に対して避難指示が出され、同時に、避難者に対する放射線被ばくスクリーニングが開始された。しかし、地域の保健所の担当者のみの対応では専門家が不足していた。このため、3月13日(日)に厚生労働省より放射線科医師、放射線技師等の専門家の福島県への派遣要請が国立病院機構にあり、同日夕方から災害医療センターの放射線班を福島県庁へ派遣した。以降、計11班(47名)の医師、放射線技師等を福島県内の21か所の避難所等に派遣し、3月21日(月)まで活動した。

なお、放射線スクリーニング班の派遣にあたっては、全国の被ばく医療の拠点病院の

医師を招聘するとともに、関東信越ブロック管内病院の放射線技師を中心に病院横断的なチームを編成しミッションを実行した。

【福島県の被害状況】

病院名		3月									
		13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日
1	災害医療センター① 千葉東病院	移動				帰路					
2	金沢医療センター		移動		帰路						
3	大阪医療センター 埼玉病院 西埼玉中央病院		移動				帰路				
4	岡山医療センター 東京医療センター 東京病院		移動				帰路				
5	横浜医療センター 下志津病院 相模原病院		移動				帰路				
6	岩国医療センター		移動				帰路				
7	四国がんセンター		移動				帰路				
8	長崎医療センター			移動				帰路			
9	災害医療センター②				移動				帰路		
10	福山医療センター					移動				帰路	
11	九州医療センター 熊本医療センター						移動				帰路

- ①災害医療センター（伊達郡川俣町）
- ②長崎医療センター（相馬東高校）
- ③福山医療センター（郡山北工業高校）
- ④九州医療センター・熊本医療センター（杜川小学校）
- ⑤東京医療センター・東京病院・岡山医療センター（郡山総合体育館）
- ⑥金沢医療センター
- ⑦横浜医療センター・下志津病院・相模原病院（郡山総合体育館）



【福島県でのNHO医療班の活動】

(3月14日～3月26日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月14日(月)	郡山市	郡山総合体育館	被ばくスクリーニング	災害医療センター、千葉東病院
3月15日(火)	郡山市	郡山総合体育館	被ばくスクリーニング	災害医療センター、千葉東病院
	いわき市	いわき市保健所	//	東京医療センター、東京病院、岡山医療センター
	福島市	あづま総合運動公園	//	横浜医療センター、下志津病院、相模原病院、四国がんセンター
	田村郡	小野町公民館	//	岩国医療センター
3月16日(水)	郡山市	ビッグパレットふくしま	被ばくスクリーニング	東京医療センター、東京病院、岡山医療センター
	いわき市	広野小中学校	//	埼玉病院、西埼玉中央病院、大阪医療センター
		浜名第二中学校	//	横浜医療センター、下志津病院、相模原病院
		いわき市保健所	//	四国がんセンター
	石川郡	石川町総合体育館、古殿町公民館	//	岩国医療センター
	相馬市	相馬東高校	//	長崎医療センター
3月17日(木)	郡山市	郡山総合体育館	被ばくスクリーニング	埼玉病院、西埼玉中央病院、大阪医療センター、横浜医療センター、下志津病院、相模原病院
	いわき市	勿来高校	//	岩国医療センター
		いわき市保健所	//	四国がんセンター
	福島市	飯坂支所	//	長崎医療センター、東京医療センター、東京病院、岡山医療センター
	伊達郡	川俣高校	//	災害医療センター
3月18日(金)	いわき市	いわき市保健所	被ばくスクリーニング(約800名)	長崎医療センター
	相馬市	相馬高校	避難所を巡回、診療(約100名)	災害医療センター
	飯館村	飯館村公民館	被ばくスクリーニング(約60名)	福山医療センター
3月19日(土)	福島市	福島東高校で診療、福島大学	被ばくスクリーニング及び診療	九州医療センター、熊本医療センター
		福島西高校	被ばくスクリーニング(約120名)	福山医療センター
	飯館村	飯館村公民館	避難所を巡回、診療	福山医療センター
	伊達郡	川俣高校	被ばくスクリーニング(約150名)	災害医療センター
3月20日(日)	郡山市	郡山北工業高校	被ばくスクリーニング	福山医療センター
	いわき市	いわき中央IC	//	九州医療センター、熊本医療センター
	南相馬市	鹿島中学校、サテライトかしま	//	災害医療センター
	東白川郡	社川小学校	//	九州医療センター、熊本医療センター
	相馬郡	新地保健センター、尚英中学校	避難所を巡回、診療(29名)	大阪南医療センター
3月21日(月)	南相馬市	サテライトかしま	被ばくスクリーニング	災害医療センター
	伊達郡	国見町ふれあいセンター	//	九州医療センター、熊本医療センター
	相馬郡	新地町役場、新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校	避難所を巡回、診療(32名)	大阪南医療センター
3月22日(火)	相馬郡	新地町役場、新地保健センター、尚英中学校、特養老人ホーム、遠藤内科医院、菅野医院	避難所を巡回、診療(計22名)	大阪南医療センター
3月23日(水)	相馬郡	新地町役場、新地小学校、福田小学校、駒ヶ嶺避難所、特養老人ホーム	避難所を巡回、診療(38名)	福岡東医療センター
3月24日(木)	相馬郡	新地町役場、新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校	避難所を巡回、診療(46名)	九州医療センター
3月25日(金)	相馬郡	新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校、駒ヶ嶺避難所	避難所を巡回、診療(55名)	九州医療センター
3月26日(土)	相馬郡	新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校	避難所を巡回、診療(32名)	九州医療センター

警戒区域一時帰宅への支援

5月10日以降、東京電力福島第一原子力発電所から半径20km圏内の「警戒区域」内に自宅がある住民の一時帰宅が始まった。国からの要請により、一時帰宅する際の中継基地で体調確認や一時帰宅後の体調不良者への対応等をするために、5月31日から主に関東信越ブ

ロック管内の28病院19班を継続的に派遣した。（以後も予定している）

熱中症、車酔い、頭痛などの対応を行ったが、被ばく量測定においては、直ちに身体に影響を及ぼす程の重大な被ばくはなかった。

【医療班派遣病院】

派遣日	派遣病院	活動場所
5月31日～6月2日 6月6～9日	災害医療センター	川内村村民体育センター
6月14、15日	水戸医療センター	〃
6月18、19日	甲府病院	〃
6月24、25日	水戸医療センター	広野町中央体育館
6月28、29日	まつもと医療センター	川内村村民体育センター
7月1、2日	神奈川病院	広野町中央体育館、 田村市古道体育館
7月6、7日	宇都宮病院	川内村村民体育センター
7月9、10日	東京病院	田村市古道体育館
7月14、15日	茨城東病院	川内村村民体育センター
7月16、17日	横浜医療センター	田村市古道体育館
7月26日	相模原病院	〃
8月1日	東埼玉病院	川内村村民体育センター
8月2～4日	東京医療センター	田村市古道体育館
8月6～8日	高崎総合医療センター	川内村村民体育センター
8月9、10日	千葉医療センター	田村市古道体育館
8月11、12日	栃木病院	川内村村民体育センター
8月20日	西新潟中央病院	〃
9月6日	西埼玉中央病院	広野町中央体育館
9月20日	西群馬病院	田村市古道体育館
9月23～25日	沼田病院	広野町中央体育館

派遣日	派遣病院	活動場所
10月1日	千葉東病院	広野町中央体育館
10月12日	下総精神医療センター	〃
10月15日	東京医療センター	〃
10月19、20日	神奈川病院	〃
10月26日	東京病院	〃
10月29日	下志津病院	〃
11月2、3日	箱根病院	〃
11月16、17日	宇都宮病院	〃
11月22、23日	埼玉病院	〃
11月30日、12月1日	村山医療センター	〃
12月3日	信州上田医療センター	〃
12月11日	高崎総合医療センター	〃
12月18日	相模原病院	〃
2月11、12日	災害医療センター	常磐自動車道広野IC
2月16日	横浜医療センター	〃
2月19日	災害医療センター	〃
2月25日	甲府病院	〃
3月1日	西新潟中央病院	Jヴィレッジ管理棟
3月4日	村山医療センター	〃
3月7日	霞ヶ浦医療センター	〃
3月10日	いわき病院	〃
3月14日	西埼玉中央病院	〃

水戸医療センター



西埼玉中央病院



東京医療センター



宇都宮病院



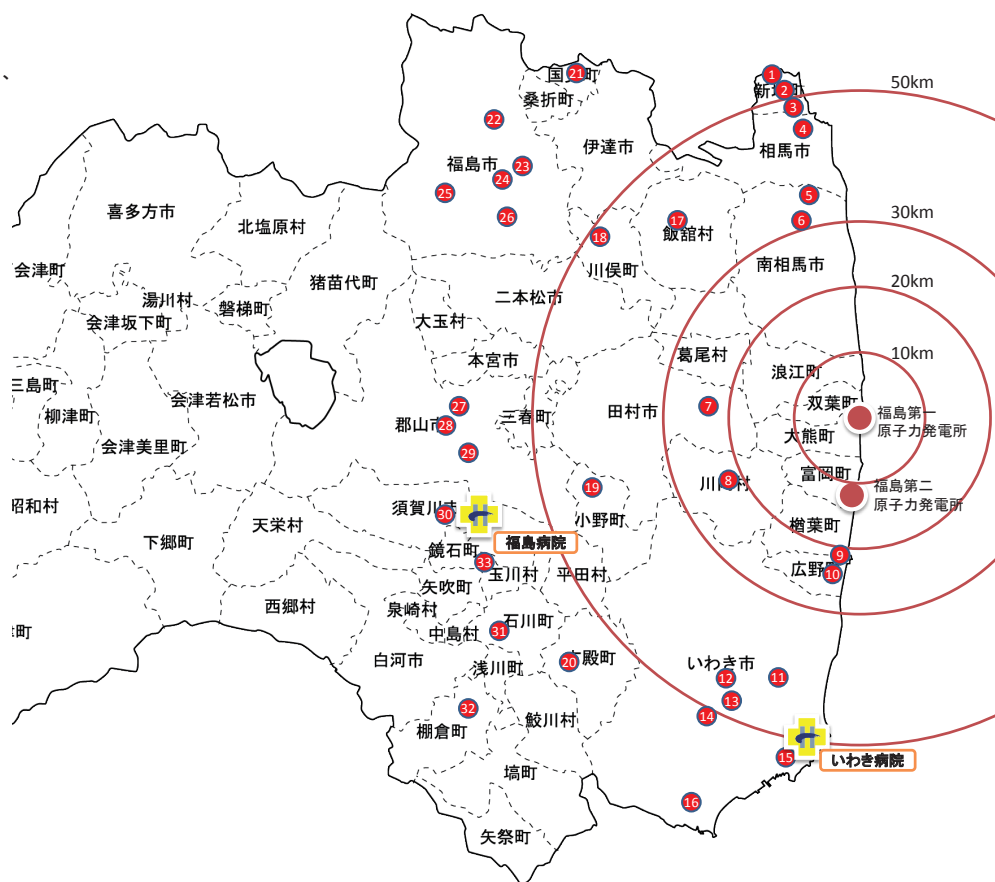
原子力災害対策本部への派遣

福島県庁内に設置された原子力災害現地対策本部に
災害医療アドバイザーとして、災害医療センターから医師
2名を派遣した。また、原子力災害対策の前線基地となっ

たJヴィレッジに大阪医療センターから医師2名、診療放
射線技師1名を派遣し、Jヴィレッジ医療チームの統括等
を行った。

【福島県での主な活動地域】

- 1: 福田小学校
- 2: 新地町役場（保健センター）、
新地小学校、尚英中学校
- 3: 駒ヶ嶺避難所
- 4: 相馬東高校
- 5: サテライトかしま
- 6: 鹿島中学校
- 7: 田村市古道会館
- 8: 川内村村民体育センター
- 9: Jヴィレッジ
- 10: 広野体育館
- 11: 草野中学校
- 12: いわき中央IC
- 13: いわき保健所
- 14: 磐城共立病院
- 15: 小名浜第二中学校
- 16: 勿来高校
- 17: 飯館村公民館
- 18: 川俣高校
- 19: 小野町公民館
- 20: 古殿町公民館
- 21: 国見町ふれあいセンター
- 22: 飯坂支所
- 23: 福島東高校
- 24: 福島西高校
- 25: あづま総合運動公園
- 26: 郡山北工業高校
- 26: 福島大学
- 27: 郡山総合体育館
- 28: ピックパレットふくしま
- 30: 福島県県中保健福祉事務所
- 31: 石川町総合体育館
- 32: 社川小学校
- 33: 福島空港



- ① 長崎医療センター（放射線スクリーニング）
- ② 岩国医療センター（福島県災害対策本部）



- ③ 千葉東病院（放射線スクリーニング）
- ④ 大阪医療センター（Jヴィレッジ）



NHO BLOUSON

本震災では多数の職員が支援活動に従事したためNHOブルゾンが不足するとともに、職種や病院名が識別できた方が活動しやすいとの声が寄せられた。このため、マジックテープで職種、病院名のワッペンを貼付けできる

ブルゾンを作成するとともに、夏場の活動における暑さ対策としてメッシュタイプのベスト(ビブス)を新たに導入した。なお、両タイプとも背中の「国立病院機構」の文字が蓄光素材で光るようになっている。

